

国保税大幅引き上げ 6378 円を可決

大きなくらしの負担増

10年間で最大

市は、新年度の一人当たり国保税額を6378円も引き上げる議案を提出しました。成立すれば、この10年間で最も高い引き上げです。

日本共産党は、来年度、県の標準保険料率に統一すれば、さらに大幅な引き上げとなり、滞納者の増加や加入者の生活と健康が脅かされると指摘し、県統一化の見直しを求めました。

市長は、「県の保険税率が採用されれば市町独自の引き下げができず、被保険者の負担が増えることになる」と認め、「物価高騰などの情勢を踏まえ、負担軽減策を県に対して提案をしている」と答えましたが、「県統一化の見直しを求めることは考えていない」としました。

社会保障の精神こそ

引き上げの要因が県統一化なのであれば、見直しをしなければ値上げを止めることはできません。

日本共産党は、「相互扶助」で加入者に高い国保税を強いるのではなく、本来の「社会保障」の精神で、公費を投入し、少しでも負担を引き下げるよう求めました。

他会派は反対

日本共産党以外の全議員は、大幅税額改定の議案には賛成しました。

また、福山市社会保障推進協議会が1510名分の署名と共に提出した国保税の引き下げを求める請願には、日本共産党以外の全議員は反対しました。



補聴器購入に助成を



路面標示

3か年集中対策

消えた白線の補修に前進 更新の評価基準を設ける



道路の区画線や道路標示が消えて見えなくなっている状況が至る所にある問題で、市議団は繰り返し、補修を進めることを求めています。市は今後3か年で区画線等の集中的な更新を行う方針を明らかにし、区画線工事の予算は前年度から約3倍の2億1200万円が確保されました。

方針では、「主要な市道」は、AIを活用した調査で計画的に更新を行い、「一般の市道」については地域の要望などに基づいて調査を行います。この調査は全国道路標識・標示業協会に指標を参考に評価・更新します。

市議団は更新についての具体的な基準についても明確に定め、計画的な更新を行うよう求めてきました。暮らしに安心の道路のために、今後は指標に基づいた適切な更新を進めることが必要です。

高齢者の難聴は認知症や社会参加に影響します。介護予防や社会からの孤立を防止するためには、早期の発見と実態把握の取り組みが必要です。が、福山市の取り組みは大きく出遅れています。

高齢者難聴

まずは調査を



市長は、「加齢による難聴は、フレイルや認知症のリスクが懸念されている」と認識しつつも、対策は「効果が検証されていないため、導入してない」と答えました。

課題を認識しているのであれば、まずは市民の実態を調査し、施策の必要性を測ることが必要です。

独自の補聴器助成

支援の具体化を

日本共産党は「補聴器の公的助成を求める会」の署名で、聞こえの問題が生活不安となっている実態を紹介し、「署名で問題が取り残されているという声が上がっている」と指摘しました。実態を調査し、独自の補聴器助成を行うべきと強く訴えました。

ご意見・ご要望をお寄せください

高木たけし
たけし通信
TEL & FAX 084-972-6830
mail takagi@f-jcp.com

みよし剛史
みよし剛史
TEL 090-1182-3973
FAX 084-994-5014
mail miyoshi@f-jcp.com

友だち追加！
LINE 公式

